
空の1036日。

花坂るい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空の1036日。

【Nコード】

N6635J

【作者名】

花坂るい

【あらすじ】

これは実話です。

私とこの子の楽あり苦あり、というお話です。

空の1036日。

第1話

「行っておゆき。」神様がそういった。

神様がいったことは正しい。だから自分はいく。

急な階段をおりて、なめらかな坂をのぼって、やっと、この家^{うち}にたどりついた。

けれどそこは家^{うち}じゃない。

色んなどうぶつがいて、お客さんがたくさんいて。

ぼくらはお金とひきかえにされる。さいていな場所だ。ぼくはお金じゃないんだ。

けれどぼくは、1900円とひきかえになった。なんでぼくなんだろう。

そしてぼくは、床が水色のカゴに入れられた。

「ガタンゴトン」って、うごいてた。

ぼく、こわくて小さくなった。まだ生まれて1ヶ月だから。それにお母さんはいない。どこにいるかわからない。

目をあけたら、そこはさっきいたような場所だった。

明るくて、広くて、ざわざわ聞こえる。

ホノカの家だった。

第2話ーホノカー

ぼくのなまえは、空。あおいセキセイインコ。

あおいから空。空から来たから空。

ぼくはホノカと、であつた。

ぼくのお母さん？

ぼくのお父さん？

ぼくのおばあちゃん？

ぼくのおじいちゃん？

次の日、ぼくは、ごはんをたべた。

こんなに満腹になるまで食べたの、はじめて。

それからしばらく日数がすぎってから、ホノカの友達が遊びにきた。

ユウとシオリ。

ふたりは、すぐたのしくて、やさしかった。4にんであそんだ。

第3話ー秋ー

秋になった。

ぼくのカゴはいつも清潔でお水もきれいでご飯もおいしい。

今日はホノカの誕生日だった。だからケーキをたべてた。
ぼくは食べていない。

10がつになれば、ホノカのダンスの発表会がある。
けれどぼくはいけない。

第4話ーふゆー

もうすぐおしよがつ。

みんなで年をこせるなんて幸せなことだ。

ふゆだからそろそろ寒くなってきたから、
じまんの青いジャンパーであたためよう。

第5話ー正月ー

さー！今日はしよがつ！

としこし楽しみだな。

「がちゃがちゃ」「ボタン。。。」

あれ？

ぼくは真っ暗な部屋においてきぼりになった。

今日はしよがつだよお！はやくパーティーしようよ・・・！

・・・そっか・・・ホノカ達は、おばあちゃんのうちで、としこし
するんだね。

そうだったんだ。じゃあぼくはとしこし、ひとりだね。

「カチツカチツカチツ」 「ゴーン」 やったあ12時だあ！……………

……………

ホノカ……………。

第6話ー1ねんめー

今は2008年。ホノカはしょうがく5年生になる。

ぼくは、1ねんちよつとまえ。

そういえばもうすぐでバレンタイン♪ホノカからもらえるかな。

第7話ーバレンタイン・デーー

やったあ！ホノカからクッキーとキャベツをもらった。うれしい！

ホノカのえがおがみえた。安心するなあ。

第8話ーハッピーバースデー！ー

今日はぼくのたんじょうび！！3がつ15にち。

ホノカから、ブランコと鈴をもらった。すっごくうれしい。

ぼくはおそろおそろブランコに乗った。すっごくたのしい

第9話ー4月15日ー

ホノカが4年生になった。

きょうはぼくがホノカの家に来た日。

だからホノカとたくさん遊んだ。

そして水浴びをして、たくさんふれ合った。たのしかった。

第10話ーなつー

きょうはホノカが水浴びをさせてくれた。

きょうはいつもより特に暑い。

だから水浴びさいてきな日だなあ。

ホノカは水浴びのいれものを、ぼくのカゴに入れるとどこかへでかけてしまった。ちよつと寂しかった。

第11話ー秋ー

ホノカが11さいになった。

パーティーのとき、ぼくも一緒にもりあがったらホノカが抱っこしてくれた。

そして、ジュースを飲ませてくれた。おいしかった♪♪

それでホノカが、いろいろプレゼントをもらって喜んだ。
また安心する笑顔を見せてた。

第12話ークリスマスー

今日はクリスマス。

クリスマスパーティーは、うちでやるみたい。
だからぼくも参加できる。

「アハハ、アハハハ」「カンパーイ!」「ウフフフ」

・・・

なんだかぼく話しに入れてないなあ。

ちょっとはぼくにも気をつかってよお。

第13話ーしょうがつー

きょうもしょうがつパーティーはぼく一人なんだろうな。

かなしいなあ。

やっぱり夜になると「ガチャガチャ」「バタン。。。」「って行っちゃった。

「カチツカチツカチツ」「ゴーン」はっぴーにゆーいやあー!

ひとりで叫んでみた「ピイツ！」

だれも話しかけてはくれなかった。

たよりになるのは、近くにある大きな駐車場の大きな照明と月明かり。

ぼくの目から1つぶ、なみだがこぼれた。

しょうがないからもう寝るしかない。

ぼくは顔を背中にくめ、眠った。

第14話ーバレンタインー

今日はバレンタイン。

ホノカに、キャベツと鈴をもらった。

キャベツがすごく美味しかった。

そういえば、ホノカ、ぼく専用のブログを作ったみたい。
そうしたら毎日、ホノカと一緒に、遊べるんだ！

ホノカがぼくをカメラで撮りにくるんだよね！うれしい。

第15話ー調子ー

最近、調子が悪くなってきた。

散歩は1週間に2回くらいしかない。ホノカもあんまりしゃべって
はくれなくなってきた。

遊ぶとしても、写真を撮るときぐらいだ。

第16話ー4月15日ー

今日はぼくが家に来たひ！

ホノカが、ぼくを出してくれた♪

嬉しかった！久々のお散歩だな。

空の1036日。

第17話―夏―

きょうは起きるとホノカがいなかった。

なにかを取りに、お父さんと、山へ行ったらしい。

そしてホノカは昼の11時ごろに帰ってきた。
体にダニをいっぱいつけて帰ってきた。

山菜を取ってきたんだって。おいしそう・・・。

ホノカはすぐお風呂に入っちゃった。

だから話すヒマがなかった。

けど、その後1時ごろから、おにわで焼き肉をした。

ぼくもカゴごと外へ出してもらってホノカと一緒にご飯を食べました♪

それからホノカがみどりのボールで遊んでたから、ぼく、応援した。

第18話―秋―

今は2009年。今日はホノカの誕生日。

ホノカは12さいになる。そういえばもうホノカはしょうがく6年生なんだ！

おめでとう！ホノカは、おともだちから、家族から、たくさんプレゼントをもらってたよ！

嬉しそうだった♪

第19話ー最近ー

最近、ほんとうに具合が悪い。単なる寝不足かもしれないけど。10月だ、ホノカのダンスの発表会がある。

ホノカは今までダンスの発表会何回出たんだろう。

えっと・・・1, 2, 3, 、, 、, 8回だ!! すごい。

第20話ー12月ー

ああ、ほんとうに具合が悪くなってきた。

ホノカ・・・助けて・・・。病院連れて行ってよー。
けどダンスとかピアノとかで、ヒマないよね・・・。

後もうすこしで、お正月。

ぼくが、ここに来てからの3回目のお正月。またひとりかあ。

さびしいな・・・。

第21話ーしょうがつー

また、みんなごちそうを持っていなくなって・・・。

「カチツカチツカチツ」 「ゴーン」・・・・おめでとう。・・・・

・

そして夜中の1時半ごろ、みんなが帰ってきたと思ったら、

すぐ着替えてまたどこか行っちゃった。ぼくには目もくれない。

最近掃除もしてくれない。お水もご飯もめったに取り替えてくれない。

さびしい。ブログだっていつの間にかやめちゃったし、遊ぶ機会もなくなっちゃったなあ。

第22話ー最期ー

ホノカが冬休みに入った。

だから、ホノカという時間が増えたし、ぼくの名前を呼んでくれたりした。

けど、ごめんね、ホノカ。ぼく・・・体が痛い。かゆい。お腹が空かない。

第23話―検診―

日がすぎるにつれ、だんだん体が悪化していく。

しっぽの上のトコが、かゆいなあ・・・けど、かいてもかいても、
わかんない！ムズムズする・・・

2010年、1月22日。

それに気付いてくれたお母さんが、病院へ連れていってくれた。

カゴのまま行った。

ぼくは、しろい服をきた人ががっしりつかまれて、しっぽの上に薬
をぬられた。

お医者さんはこう言っていた。

医..「ストレスと、栄養不足で自分で自分を傷つけています。」
そう、傷つけているところが、ぼくのムズムズするところだったん
だ。

医..「止まり木に止まれるだけ、まだ元気です。けれど、もう止ま
れなくなったら諦めるしかないでしょう。」

それが終わったあと、カゴに布をかぶせられて、家にかえった。

次の日から、大変だった。

お母さんにつかまれて、むりやり飲み薬を飲まされた。

けっこう甘かった。

第24話―最終最後―

2010年、1月31日。

ホノカが外へ出してくれた。

喜んで出たけど、その時ぼく一番体調悪い日だったってわかった？

けど、ありがとう、ホノカ。

ホノカ‥「きゃ！空ー！」ぼくはもう安全には歩けなかった。

羽をバタバタするしかなかった。

ああ、電気がまぶしい…………。

ぼくはテレビの下に隠れた。

ホノカ‥「そら！だめ！出ておいで！！」

しょうがなくぼくは出た。それからもろくにうまく歩けなかった。

そしたらお母さんが来て、ぼくをタオルで抱いてくれた。

ぼく……もう……ムリかもしれない……。

お母さんが、ばあちゃんと、（お母さんの）妹を呼んでくるよう頼んだ。

母…「空がちよっと危ないから、ばあちゃんと、とこちゃん（母の妹）を呼びなさい！」

「ポタ……」

ホノカの目からおおつぶの涙がこぼれてた。

ホノカ…「うつ……うつ……」

ホノカ、なんでそんな悲しむの？やめてよ、ぼくも悲しくなっちゃう。

しばらくしたら、ばあちゃんと、とこちゃんが来た。

ぼくは、まず、カゴにもどされた。

けどぼくは、立てなかった。鳴けなかった。ホノカに何も言えなかった。

ぼくは、あおむけになった。まだ息はできるけど、足がかたい。動かない。

むりやり羽を動かして、起き上がった。けどやっぱり上手く立てない。

そしたらまたお母さんがタオルでぼくを抱っこしてくれた。

その次にホノカが抱っこしてくれた。なんだか1番暖かくて安心した。

けどぼくはもう、このまま逝く。ホノカとは、離れたくない。けど離れなくちゃ。けどやだ。

ぼく、強い男だから、みんなに悲しい瞬間は見せたくない！！

ぼくは必死に目を開けた。

けど、どんどんせまくなる視界。

だめだ！ホノカと離れるわけにはいかない！！お母さん！ばあちゃん！

そしてぼくは、小さなカゴに布をひいたベッドに寝かされた。

みんなに、見守られた。

だから、ぼくは起きなきゃ。ホノカとまだ遊ぶんだ。

。「コテツ・・・」やっぱり体が思うように動かない。なんでだ・・・。

第25話ーばいばい。ー

ホノカ・・・・・・・・・・。

だめだ、目をつむっちゃだめだ・・・・・・・・。

けどホノカは何度も何度も言ってくれた。

「空、もういいよ。」「空、もう眠っていいよ・・・。」

ホノカは涙ながら言った。

いやだ！ぼくはいやだ！ホノカという！！

しかしホノカはしばらくすると、寝ると言って部屋へ行ってしまった。

ホノカ…「空になにかあったらゼーったい起こしてね！」と言った。

ばあちゃんも、とこちゃんも、みんなぼくから離れた。

最後に、
みんなの顔をみたいよ。

ホノカ..「おかあさん、空が心配で眠れないよ。」

ホノカが、空のベッドをのぞいた。

ホノカ..「えっ.....?お母さんちよと.....」

母..「え?」

お母さんは、空のベッドを見た。

母..「あらー空亡くなってる」

ホノカの目からいっせいに涙があふれてきた。

ホノカ..「そらあー！ー！うっうああああー！ー」

お母さんも泣いた。

みんなの目から涙がこぼれた。

空は、半分起き上がった状態で亡くなっていた。

きっと、最後にみんなの顔を見たかったのだろう。

2010年1月31日 23..50頃 永眠した。

ホノカ、お願い・・・。

ぼくともう1度遊んで・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6635j/>

空の1036日。

2010年10月15日00時48分発行